

## 令和6年度 第2回松山地域協議会会議録

日 時 令和6年12月20日(金) 午後1時30分～3時30分

場 所 松嶺コミュニティセンター

出席委員 10名

平 向 邦 夫 木 村 美津枝

今 井 一 博 小 林 正 利 石 川 百合子 清 野 淳

富 樫 とも子 齊 藤 薫 田 村 敬 子 櫻 田 憲 彦

欠席委員 5名

岩 崎 彩 荘 司 東 一 加 藤 恭 子 井 上 亜紀子

荘 司 徳 由

### 酒田市出席者

松山総合支所長 鈴木 啓 介

松山総合支所長補佐兼地域振興係長 佐 藤 賢 治

松山総合支所長補佐兼建設係長 加 藤 弘 樹

松山総合支所市民係副主幹 高 橋 美 津

### 1 開 会

○開会の言葉 佐藤支所長補佐

### 2 会長あいさつ

○平向邦夫会長よりあいさつ

### 3 議事録署名人の指名

○会長より議事録署名人に、田村敬子委員を指名

### 4 議事

#### (1) 地域協議会市長報告会の政策提言について

(会長)

7月25日からの大雨災害の影響により、9月に予定していた2回目の協議会を開催することができなかった。事務局と相談し、今年度はこのたびの災害を踏まえて、市の災害対応に特化した内容で提言を行っていきたいと考えている。

(支所長)

補足させていただく。6月20日の第1回協議会において、松山地域全世帯の皆様にお買い物

や地域公共交通などについて実態アンケートを実施し、その結果を踏まえて見えてきた課題について、地域協議会の提言として取りまとめてはどうかということをご意見を伺った。支所では7月29日の送達でアンケートを配布する準備を進めていたが、7月25日から大雨災害により中止せざるを得なかった。それを受け会長とも相談して今年度は災害に特化して提言をすることとして、皆様より事前にご意見を伺った。

伺った意見をもとに、会長と事前に相談し、「住民への防災意識向上のための取組を強化すること」「避難所の運営の検証を図り対策を講じること」「防災行政無線・防災ラジオの改善を図ること」「防災対策の強化を図ること」とテーマを4項目にまとめた。この件に対してご意見を伺って提言につなげていきたい。

(会長)

異論がなければ、災害対応に特化した内容で提言をまとめる。いかがか。

→異論なし

(会長)

それでは委員の皆様より提言内容についてご意見を伺いたい。

(小林委員)

今回は大雨ということで松山では長時間の停電はなかったが、東日本大震災の際は長時間停電して寒い思いをした。長期間停電した場合に避難所に配備できる電源車は市にあるのか。

(支所長)

避難所に電源車という対応は基本的に考えていないが、防災資機材庫には発電機が配備されている。そちらを使用させていただくことになる。

(佐藤補佐)

補足すると、東北電力酒田営業所では2台電源車を所有している。市との協定により必要に応じて配置されることになる。局地的な災害で長期間停電が見込まれる場合は手配できると思うが、全市的な停電であれば優先順位の高いところに配置となる。基本的には各防災資機材庫にある発電機での対応となる。

(今井委員)

9月の災害のことではあるが、突然エリアメールが鳴り避難指示が2自治会限定で流れた。その判断は誰がしたのか。地元ではまだ大丈夫という意識があったが、自主防災会にて家を周って避難させた。しかし荒興野自治会よりも土砂災害の危険性が高いとなりの成沢自治会では誰も避難してこなかった。重要度がよくわからなかった。また地区の防災会の位置付や任務がはっきりしていない。見直すべきかと思う。

(支所長)

レベル4の避難指示は市長が発令した。気象庁のデータ等から判断をしたもの。支所では避難指示を出すほどの雨ではないと思われたが、本部では何かあってからでは遅いので、発令は

ためらわないで出すというのが、基本方針となっている。

レベル4、5の避難指示が出たら、速やかに避難していただきたい。個々の状況は支所では把握しきれないので、市からの指示を待たずに個人や自主防災会で判断して避難していただきたい。7月もレベル4、5を出していたが、避難する人が少なかった。自分の身は自分で守ることを徹底していただきたい。

(会長)

9月の大雨では、土砂災害の危険が一番高かったのは成沢だった。荒興野は県道を挟んでいるのでそれほど危険ではない。市で地域をもっと理解していただき成沢自治会にのみ避難指示を出していただきたかった。自治会長も避難しなければならないと意識していなかったようだ。

(今井委員)

荒興野自治会では成沢自治会が逃げるのであれば一緒に逃げるべきと行動したが、結果誰も来なかった。荒興野自治会の住民は避難訓練だと思って行動していたので、特に苦情はなかった。

(支所長)

気象庁のシステムではメッシュ単位で危険エリアが決まる。成興野にもそのメッシュがかかっていたため、発令された。

(石川委員)

防災行政無線は聞こえにくいので、窓を開けて聞くようにしている。宅内の防災ラジオは、個別受信機の頃は聞こえたが今は鳴らない。役に立っているのか。試験放送は鳴るが他は鳴らない。ラジオが飾りものになっている。

(支所長)

9月議会においても、複数の議員より同じような質問があった。町時代に整備した個別受信機は地域単位で直接起動をかけられたが、防災ラジオは公共の電波に割り込むため、地域を限定した起動はかけられず、全市的な放送しか起動が出来ない。放送基準の緩和については要望していくしかない。危機管理課でも防災行政無線での情報伝達が課題と認識しており、ラジオの電波の弱いエリアに個別受信機を設置することなどを検討すると議会でも答弁している。

(石川委員)

レベル4にならないとラジオから放送されないということは、避難行動を早めるということに矛盾している。

(清野委員)

国道345号が止まっているのに防災行政無線での放送もないのはどうか。ハーバーラジオがダメならNHKなどの公共放送を使えないか。国道345号の車が迂回路案内で長蛇の列になっていた。市民の生活に影響が出るので、防災ラジオで放送してもいいのでは。

(支所長)

本来は国道なので国交省もしくは、国道を管理する庄内総合支所が周知すべき案件だが、規制情報が何を見てもされていなかった。そのため市の危機管理課を通してホームページやLINEなどで周知した。今後、国や県と連携をとって、万が一に備えていきたい。

(清野委員)

災害時の資機材が松山小学校の防災資機材庫に備蓄されていると聞くが、非効率だと思う。各コミュニティセンターや支所へあると助かる。期限を管理してのローリングストックや定期的な資機材の確認をしていただきたい。

(支所長)

松嶺コミュニティセンターの資機材庫に本来あるべき物が、狭いので小学校や改善センターに保管している。備蓄している備品類も十分ではなかったので、今後に向けて万全を期していきたい。

(清野委員)

避難所に連絡員として市職員2名が来ていたが、なかには現場を見るわけではなく、スマホを見て弁当の数を報告しているだけの人もいた。人材がもったいないと思った。現場を確認して状況を発信していただければいいと思った。業務内容を検証していただきたい。

(支所長)

避難所連絡員の配置については、本来やらなければならない災害対応等の業務にも支障をきたしており、市の中でも課題になっている。職員の役割は初動に注力し初動以外は地域の力をお借りするという流れが理想と思われる。今回は避難所が数か所だけだったので、職員を配置できたが、全市的となった場合は職員を配置することが出来ないことが分かった。しっかり検証して次に備えていきたい。

(清野委員)

もう一歩進んだ対策をお願いしたい。ぜひ次の手を考えていただき、提言につなげていただきたい。初動で来た職員は地域内の方で各種リストを作成するなど精力的に活動していただいたが、次以降来る方で途絶えてしまった。もっと綿密な本部の指示の伝達や危機管理課よりマニュアルをしっかりと作りなおしてもらいたい。地元の方々も入れて作り上げていただければ。

(富樫委員)

次の日の朝に竹田地区の災害を知った。どのような行動をしなければならなかったのか。指示は自治会から来るのか、市から明確な指示が来るのか。今回は実際どのような指示が出て避難したのか。

(支所長)

レベル4が発令され、市長から避難しなさいという指示となっている。全市一斉に指示を出しており、自治会長には直接指示をしていない。市としては指示が出たら個人の責任で速やか

に避難していただきたい。ただし、夜間の場合は外に出ると危険なので垂直避難を呼びかけている。

(富樫委員)

避難所が内郷コミュニティセンターに立ち上がったが、横のつながりはなにもなかった。松嶺地域の青年会、婦人会に何の連絡もなかった。

(小林委員)

山寺コミュニティ振興会では内郷コミュニティ振興会と連絡を取り合っていた。

(清野委員)

松嶺コミュニティセンターの避難所では、炊き出しも考えて婦人会に声掛けを検討したが、市から物資がすぐに送られてきて、それで間に合ったため声掛けをしなかった。青年会を構成する消防団からはいろいろとお手伝いをしていただき助かった。青年会とは連携がとれていた。

(富樫委員)

もっと自治会やコミュニティ振興会の横の連携もあった方がよかったのでは。

(会長)

自治連の集まりにおいて、自主防災会が各自治会にあるが、山居町の一部は機能したと言っていたが他の自主防災会は機能していないことから、自主防災会の在り方について考えていかなければならないと話題になっていた。

(支所長)

避難所の運営は行政だけではできない。横の連携が必要であることが分かったので、どうあるべきか考えていかなければならない課題であるにとらえている。

(会長)

内郷コミュニティセンターの避難所は、コミュニティ振興会や自治会の内部でうまく調整できたので、避難をした方からは快適な環境だったと聞いている。

(櫻田委員)

平田地域の防災行政無線は聞こえてくるが近くの子局からの放送は聞こえない。また、ボランティアで八幡地域に行ったが、ぜひ八幡地区の話を聞きながら松山でも今回の災害の経験をいかしてもらいたいと感じた。下竹田地区に昭和時代の水位の標示がある。今後はもうないと思っていたがこのような被害があった。竹田地区に関しては一番の原因は何であったか、今後の改善策は何か考えているのか。

(支所長)

防災行政無線は風向きによるものと考えられる。八幡のボランティアの経験に関してはそのとおりだと思う。今回の災害の原因については豪雨によるもの。一番近い観測点の累加雨量で400mm位降っており、今まで経験のない雨だった。かつて増水した際は200mm程度と言われている。酒田河川国道事務所の検証では300年に一度位の雨量とのこと。最上川の水位が

上がると竹田川・藤里川に最上川の水が逆流しないようにゲートを閉める。行き場のない両河川の水をポンプで最上川に汲み出している。今回はゲートを閉めポンプも稼働し排水していたがそれでも内水が上がりポンプが浸水して停止した。それが原因となっている。現在はポンプを修理し今週の月曜日に試運転を行うなど、令和8年度に向け本復旧を進めている。その他、酒田河川国道事務所、庄内総合支所、酒田市の3者で内水面氾濫に関する協議会を立ち上げ、どういった対策ができるか検討して対策を講じていく。また、最上川中流下流流域検討会を国で開催し、河道掘削や支障木の伐採、堤防の嵩上げ等により水位を下げる対策を講じると報道があった。これから改善に向け様々な対策がされていくものだと認識している。

(田村委員)

自分は市公式LINEより情報をとっている。スマホを持っていない人にどのように情報を出していくのか。情報の出し方を考えていかないといけない。

(支所長)

防災行政無線、どのような手段が有効なのか検討していきたい。テレビの活用も含めて危機管理課へ意見をつなげていきたい。

(齊藤委員)

10月に自治会での防災訓練の際に話題になったが、どこに逃げたらいいか分からなかった。7月の大雨の際は三瀬川も溢れて、臼ヶ沢から南部コミュニティセンターには行けなかった。他地区の山寺コミュニティセンター、松嶺コミュニティセンターに行っていたということがその時は分からなかった。

ハザードマップを今の気象条件や今回浸水した地域などを加味して見直し、示して行く必要があるのではないか。見直すことで市民の意識が変わるのではないか。

避難所の運営は行政頼み。そういった災害に対する意識を変えてもらう必要があるのではと思った。

(支所長)

ハザードマップは西荒瀬地区では、大分違っていたという意見が出ていると聞いている。南部コミュニティセンターが危険になったときは逃げるところがない。松山小学校に早めに逃げていただきたい。南部コミュニティセンターは垂直避難が出来ればいいが、2階に上がるには課題があるため、対策を講じていかなければならない。

(今井委員)

以前、市外で防災行政無線の見直しを図る仕事をしたことがある。遠くまで聞かせようとすると近くは聞きづらくなる。自分の地域では地区内の拡声器は聞こえず、狩川の拡声器の声は聞こえる。下に向けるとよく聞こえることが分かった。ただし、下に向けると遠くまで聞こえないため数を増やす、出力を上げるなどしなければならない。そろそろ見直す時期にきているのではないか。

(副会長)

災害が起きる前から防災行政無線はあてにしていない。スマホが一番役に立つと思っている。酒田は他の地域と比べて災害が少ないと思っている人がいるが、他から見ても自然災害は多い地域だと思う。自分で自分たちを守るという意識が必要である。

ボランティアは非常に助かる存在であるが、すぐに来てほしくないという声が聞こえた。ボランティアは慣れているので、処分するのかわからないのか急かされるため、結局すべて処分してしまいで後悔するとのこと。整理してから来てもらいたいという人がいた。ボランティアも慣れているスーパーボランティアから初心者、火事場泥棒もいたと聞く。ボランティアセンターも人を選ぶことはできない。受援者側にも対策が必要。

どのような災害でどういった行動をした方がいいのか、家族がバラバラの時どうしたらいいのか、事前に決めておく必要がある。高齢者世帯や一人暮らしの高齢者は特に難しい。高齢者がどう対処するのか考えていかなければならない。それが一番の課題だと思っている。

(会長)

過去に田に水がついてしまうことや、三瀬川の水位が上がることも何回も経験している。以前は庄内橋から山寺地区の鈴川まで堤防がなく、山田地区の田が遊水池になっていた。過去に何回も経験している災害について、今後、研修などによって被害はあるということを知ってもらった方がいい。

ボランティアセンターでは、ボランティアの方々に被災者の話を聞くようお願いしているようだが、ボランティアに慣れている人はどんどん作業を進めてしまう。被災地ではボランティアなのか観光客なのか見分けがつかないとも聞いている。

雨量計を4コミュニティセンターか支所に1台はつけてもらいたい。昭和47年7月の災害では地見興屋小学校の授業でたまたま雨量計を設置していた。2～3日の集計で360mm～400mmであったと記憶している。地域で数値が最初から分かっていたら違った対応ができたのではないかな。

(齊藤委員)

臼ヶ沢に設置してある砂防ダムが結構あるがほぼ埋まってしまった。これが機能しないと次の災害で被害がおきてしまう。どのように考えているか。

(加藤補佐)

現場は確認している。県の河川砂防課に現場の写真等を送り照会している。県から連絡が入ったら連絡させていただく。

(清野委員)

竹田川の総光寺付近の法面のブルーシートが破れ土砂が流れている。塔場坂を降りていったところにある杉の木が崩落している箇所が2か所ある。昔の新湯に向かう道路も土砂が流れている。さくらホームの法面も竹林に土砂が流れている。予算の要望に入れてもらいたい。

(会長)

河道掘削、支障木と雑草の撤去を田沢自治会でずっと要望してようやく浚渫してもらい、やってなかった下流部と比較して災害時は50cm水位が低かったと聞く。南部地区の川は土砂で埋まっているところが多い。市長も浚渫の大切さを発言しており、今年もやっていくと聞いている。野鳥の生息場所となっているためすべては撤去できないと聞いている。いつかはやってくれるのだと思うので、要望は続けて行く必要がある。我々はそれ等をまとめて提言する。

(小林委員)

災害現場は支所で調査しているのではないか。

(支所長)

現場はすべて見ている。国の災害査定や県・市の単独で復旧するものと区別しながら災害復旧に向かって作業を進めている。

(会長)

いただいた意見を参考にして、事務局と提言書の原案を作成する。昨年度と同様、3回目の協議会は書面でおこないたいと思うがいかがか。提言書原案が出来次第、皆様へ郵送するので、意見書を返送いただく形で考えている。

→異議なし

(会長)

3回目の協議会は書面で行う。

## 5 その他

### (1) 旧松山中学校体育館における仮設屋内スケートリンクの整備について

(会長)

酒田市の屋内スケートリンクはもともとあったものを移転するだけ。県と山形市はアリーナ付のリンクを新たに作るので、全く別物である。来客数もそれなりにいたので、市でも作ってもいいのではないかと市長へ申し上げた。市長からは災害の復興が終わったら検討すると回答があった。

### (2) その他

(支所長)

本日配布した、「令和6年7月25日からの大雨による災害に係る復旧・復興方針(案)」について、ご覧いただきご意見があれば、支所までお伝えいただきたい。

(会長)

各地域より話し合いをしたいとの意見もあった。

## 6 閉 会

(平向会長)

これで第2回松山地域協議会を終了する。円滑な議事進行に協力を賜り、感謝申し上げます。